



看護師
長谷川 有里子
金丸 知世

夏風邪について

大人の夏かぜは症状が穏やかな場合が多いのですが、子どもの場合は症状が重くなることがあります。プールを介して感染することが多い「**プール熱**」や、口内炎のできる「**ヘルパンギーナ**」、手・足・口に 水ぼうがができる「**手足口病**」や、目の充血・目やに・涙がでる「**流行性角結膜炎**」などは、子どもがかかりやすいウイルス性の夏かぜの代表格で、症状の変化に注意が必要です。高熱が出て嘔吐などが見られる時は、医療機関を受診しましょう。6月初めより、夏風邪（プール熱・ヘルパンギーナ・手足口病）の3週連続の増加が確認されています。予防法は、冬場と変わりません。部屋の乾燥を防ぎ、手洗いをしっかり行い、バランスの良い食事をして、規則正しい生活を心がけましょう。また、体調が戻ったからと言って、油断せずに、しっかりと体をやすめることも大切です。

☆**プール熱（咽頭角結膜熱）**は「主要症状が消退した後2日を経過するまで登園停止」となります。

また、登園の際には、医師に記入いただく**登園許可意見書**が必要となります。

ヘルパンギーナや手足口病は登園許可に必要な提出書類はないものの注意が必要な病気として位置づけられています。

3大夏かぜの症状



7月からプール活動が開始されます。

今年度も環境省熱中症予防情報サイトや黒球計を利用し、保健コーナーの掲示を通して、暑さ指数等の情報をお知らせしていきたいと考えています。

保育園では環境省熱中症予防情報サイトの「**WBGT 暑さ指数が厳重警戒を超えたら、屋外での活動を基本的に中止する**」ことで安全な保育に努めていきます。また、室内においても、水分補給や休息、室内の適切な温度管理に努めていきます。

発熱や嘔吐・下痢等の脱水症状が強く疑われるときには、**経口補水液も飲用することがあります。経口補水液の飲用を希望されないご家庭は担任・看護師までお声掛けください。**その際は従来通り、麦茶・白湯等で対応させていただきます。

水イボについては、プールの水を介する感染の恐れはないとされています。感染の恐れのない状態（水イボがジュクジュクしていない、傷になっていない等）であれば、治療の必要はありません。

感染症情報

突発性発疹	1歳児	1名
	0歳児	3名
手足口病	1歳児	14名
	2歳児	1名
ヘルパンギーナ	1歳児	2名
伝染性膿痂疹（とびひ）	1歳児	1名
水痘（水ぼうそう）	1歳児	1名

※6月は乳児クラスを中心に、下痢・嘔吐・発熱で体調を崩す園児、手足口病の園児も多数いました。引き続き、園内の消毒や換気をこまめにおこない、感染症の拡大防止につなげていきたいと思ひます。今後も園内の感染症状況を保健の掲示やおたよりを通して、お伝えしていきます。

災害共済給付（スポーツ振興センター）に関する同意書のご提出ありがとうございました。

提出がまだの方は、担任までお願いいたします。